

生誕 100 周年記念恒友会ご挨拶

6 回生の北村でございます。

本日はお忙しい中を関先生が生誕 100 周年記念の恒友会に、このように多数の皆様にご出席頂き^{まこと}允にありがとうございます。

また、本日の会は、24 回生藤田正一郎さんが中心となり同期生や後輩のゼミ幹が幹事となって、企画し準備・運営の一切を行って頂きました。私は恒友会名簿のデータを藤田さんに提供しただけで、他に名何もせずに若手の幹事の皆さんが一切をやって下さり、改めて感謝申し上げます。

さて、関恒義先生は、1924 年 9 月 27 日に長野県長野市で生まれました。本籍地は長野県北安曇郡陸郷村(現在の安曇野市明科南陸郷)で、先生の父上が恐らく長野県庁の職員かなにかを勤めておられて長野市に住んでおられ、そこでお生まれになったのであらうと思います。

関先生の郷里は、安曇野の平野の向こうの西側に 3000 メートル級の北アルプスの山々が連なる、とても風光明媚のところでした。先生はとても郷里に愛着を持っておられたようで、ゼミのコンパなどでお酔いになると安曇節を歌っておられたのを思い出します。

関ゼミナールの OB の恒友会はこれまで数多くの会を開いてまいりました。恒友会の会誌『恒友』で調べると、第 3 号還暦記念号に先生は「今年 1984 年は私の還暦の歳である。恒友会で盛大な祝賀会を開催してくれた」として、大学院卒の会・学部卒の会・田沢温泉への記念旅行（これは在学生のもの？）が行われています。先生から記念品（底に一橋のマークが入った木製の朱塗りの盃）を頂き、今も正月には使わせて頂いています。

また、『恒友』第 4 号退官記念号には『学生の在学する最後の恒友会』の写真が掲載されています。

泊まり掛けでの会もやりました。先生が山梨の竜王に住んでいる時に、^{みのぶ}身延の下部温泉での会や先生のご二男一秀さんがつくば市に新居を建てられた時につくば市のホテルで行われた会で奥様と息子さん達ご夫婦もこられての一泊の会を思い出します。

記録に残っている会は、1997 年先生の著書「現代の経済原論」出版記念で立川のホテルで、1999 年恒友会誌「恒友 5 号」発刊記念で如水会館、2001 年関先生 77 歳の喜寿祝賀会、2004 年 80 歳の傘寿祝賀会で何れも吉祥寺第一ホテ

ル、また、2007 年一橋大学佐野書院で開かれた会は先生は車椅子で来られ、これが先生ご出席になった最後の恒友会となりました。

2012 年は先生の米寿の年でしたが入院なさっていて出席できませんでしたので、せめてゼミテンだけでもとお祝いの会が如水会館で行いました。

その翌年、関恒義先生は、11 年前の 2013 年 10 月 23 日にその生涯を閉じられました。その時は、恒友会では先生のご長男の関文秀様が釧路からお越しになりお別れの会を致しました。また、翌年の 1 周忌には偲ぶ会を行いました。

今回の生誕 100 周年記念恒友会は 10 年ぶりの会になりました。恒友会を 10 年毎の三つの世代に分かると、第一世代の方は殆ど 80 歳台になられ、既に関先生の歳を超えられた方もおられると思います。高齢化が進み、今後、このような全体での恒友会は難しくなると思います。

今回の会を一区切りとし、60 歳台の第三世代を中心に今後のことを考えて頂ければと思います。私が管理していた恒友会のファンド 12 万円余も既に藤田さんに引き継いで貰いました。その処理等も含め、若手会員の皆さんお任せしたいと思います。

本日は、私たちにゼミナール生活の楽しい思い出を残して頂いた、議論が好きで、お酒のお好きだった関恒義先生を懐かしく偲んでご歓談頂きたいと思います。

本日は、お忙しい中をご出席頂き允にありがとうございました。